

# 外国語教育メディア学会（LET） 関西支部 2019 年度春季研究大会 発表要項集



日 時： 2019 年 5 月 18 日（土） 10：00 ～ 17：40

場 所： 関西国際大学 尼崎キャンパス  
〒661-0976 尼崎市潮江 1-3-23  
<http://www.kuins.ac.jp/access.html#amagasaki>

主 催： 外国語教育メディア学会（LET） 関西支部  
<http://www.let-kansai.org/>

事務局： 外国語教育メディア学会（LET） 関西支部事務局  
〒112-8551 東京都文京区春日 1-13-27  
中央大学 理工学部 山西博之 研究室内  
E-mail： [kansaillet@gmail.com](mailto:kansaillet@gmail.com)

# プログラム

9:15-16:00 受付■ ロビー (5 F)

10:00-10:15 開会行事■ 501 教室

司会◆ 山西 博之 (事務局長・中央大学)  
挨拶◆ 菅井 康祐 (支部長・近畿大学)

10:20-12:00 ワークショップ1■ 506 教室 (当日先着順で40名まで)

「ICTで加速する語学教員の働き方改革：チームによるクラウド活用の初歩」  
講師 電子語学教材開発研究会・木村 修平 (立命館大学)  
司会 神谷 健一 (大阪工業大学)

※Wi-Fi 接続可能なノート PC or タブレットをご持参ください

ワークショップ2■ 516 教室 (当日先着順で40名まで)

「偉人たちに学ぶ創造的授業実践の方法」  
講師 平塚 貴晶 (東北大学)  
司会 水本 篤 (関西大学)

9:50-16:00 業者展示■ ロビー、505 教室、516 教室

12:00-13:00 昼食

運営委員会■ 503 教室

13:10-13:50 支部総会■ 501 教室

14:00-15:50 研究発表・実践報告・Classroom Tips

① 14:00-14:30 ② 14:35-15:05 ③ 15:10-15:40

第1室 (研究発表・実践報告) ■ 504 教室

司会 中西 のりこ (神戸学院大学)

- ① [研] 音声学を履修していない教員の発音指導力向上に、発音記号はどのように貢献できるか  
山本 玲子 (京都外国語大学) ・ 里井 久輝 (龍谷大学)  
眞崎 克彦 (関西大学)
- ② [研] ポライトネス理論の視点による苦情対応の日英比較: 店側の落ち度の程度による対応の変化  
岩井 千春 (大阪府立大学) ・ 岩根 久 (大阪大学)
- ③ [実] クイズゲーム形式の Kahoot! とスマートフォンを活用した語彙学習  
野澤 和典 (立命館大学)

## 第2室（研究発表・実践報告・Classroom Tips）■ 506 教室

司会 松田 紀子（近畿大学）

- ① [研] Google 翻訳の外国語教材作成への応用：フレーズ訳の作成を中心に  
神谷 健一（大阪工業大学）
- ② [実] 生徒を世界に繋ぐ ICT 活用の実践  
堀尾 美央（滋賀県立米原高等学校）
- ③ [CT] ロイロノート・スクールを使った授業  
大前 智美（大阪大学）・北岡 千夏（関西大学）

## 第3室（研究発表・実践報告・Classroom Tips）■ 516 教室

司会 近藤 睦美（京都外国語大学）

- ① [研] 非英語圏留学における英語学習の効果  
川久保 淳（株式会社産業編集センター）・伊藤 創（関西国際大学）
- ② [実] 大学における留学準備ライティングクラスの実際：TOEFL Criterion® の活用  
伊庭 緑（甲南大学）・吉田 桂子（甲南大学）
- ③ [CT] B6 の白紙を用いた追加ライティング活動の紹介  
真島 由朱（大阪府立箕面高等学校）

15:40-16:00 休憩・業者展示

16:00-17:30 基調講演■ 501 教室

### “Connecting Writing Assessments to Teaching and Learning: Distinguishing Alternative Purposes”

講師紹介◆ 名部井 敏代（関西大学）

講 師◆ Alister Cumming (University of Toronto)

17:30-17:40 閉会行事■ 501 教室

司会◆ 山西 博之（事務局長・中央大学）

挨拶◆ 小山 敏子（副支部長・大阪大谷大学）

17:50-19:30 懇親会■ 2F 食堂

司会◆ 河内山 真理（関西国際大学）

挨拶◆ 伊庭 緑（副支部長・甲南大学）

## お知らせ

- 参加者は、受付にて必ず参加登録票にご記入のうえ、ネームホルダーをお受け取りください。LET 会員の参加料は無料です。非会員の方は当日会費 2,000 円(大学院生は学生証を提示していただくと 1,000 円)を受付でお支払いください。また、学部生は無料でご参加いただけます。なお、支部大会当日にご入会いただくことも可能ですので、支部事務局(受付)までお申し出ください。
- 昼食は会場周辺(あまがさきキューズモール等)の飲食店等をご利用ください。
- ワークショップ1に参加希望の方はノート PC またはタブレット (Wi-Fi 接続可能なもの) をご持参ください。
- 館内は全面禁煙です。
- 駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
- 懇親会は2階レストランにて開催いたします。参加費は 2,000 円(学生 1,000 円)です。当日受付にてお申し込みください。

## 会場への交通案内・会場案内図

- **伊丹空港からお越しの方**(1) 大阪モノレール「大阪空港」駅から「蛍池」駅まで約 3 分、阪急宝塚線に乗り換え「梅田」駅まで約 15 分、JR 神戸線に乗り換え「尼崎」駅まで約 5 分  
(2) 伊丹市バスで JR「伊丹」駅まで約 25 分、JR 宝塚線に乗り換え快速で「尼崎」駅まで約 7 分
- **関西空港からお越しの方**(1) 「JR 尼崎駅前」行きのリムジンバスで約 65 分  
(2) JR「関西空港」駅から関空快速で「大阪」駅まで約 60 分、JR 東海道・山陽本線に乗り換え「尼崎」駅まで約 5 分
- **神戸空港からお越しの方**ポートライナー「神戸空港」駅から「三宮」駅まで約 18 分、JR 神戸線に乗り換え、新快速で「尼崎」駅まで約 15 分

|            |                               |                                  |
|------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 大阪         | JR 神戸線新快速                     | 約 5 分                            |
| 三ノ宮        | JR 神戸線新快速                     | 約 15 分                           |
| 京都         | JR 神戸線・京都線新快速                 | 約 35 分                           |
| 宝塚         | JR 福知山(宝塚)線快速                 | 約 19 分                           |
| 姫路         | JR 山陽本線新快速                    | 約 55 分                           |
| 新大阪        | JR 神戸線・京都線新快速                 | 約 11 分                           |
| 京橋         | JR 東西線                        | 約 17 分                           |
| 奈良         | JR 大和路線大和路快速(大阪行)             | 約 65 分                           |
| 大津         | JR 東海道本線新快速                   | 約 48 分                           |
| 大阪国際<br>空港 | 伊丹市営バス 約 25 分<br>モノレール 約 3 分  | JR 宝塚線快速 約 6 分<br>JR 神戸線快速 約 5 分 |
| 神戸空港       | ポートライナーで三宮へ「三ノ宮」駅から JR 神戸線新快速 | 約 40 分                           |

※ JR 尼崎 非乗り換え時間には含まず  
徒歩約 5 分  
尼崎キャンパス



## 出展企業(賛助会員)の企業概要・今大会での出展内容

### 1. 株式会社 桐原書店

桐原書店は書籍の刊行や ICT 教材の開発・提供を通じ、大学英語教育に貢献することを目指します。

### 2. 株式会社 成美堂

株式会社成美堂は大学教養課程向けの英語教材の出版と e-Learning 教材をご提供致しております。

### 3. 株式会社 内田洋行

株式会社内田洋行は、外国語教育×アクティブラーニングに適切な環境・柔軟なソリューションの導入実績を豊富に有するICT企業です。

### 4. 株式会社 エル・インターフェース

「スーパー英語」はエル・インターフェースがご提案する英語学習サービスです。

### 5. 株式会社 教育測定研究所

200 万人が受験した英語テスト CASEC や英作文自動添削ツール CASEC-WT のデモ紹介をします。

### 6. 株式会社 アルク

アルクは真のグローバルコミュニケーションの実現を目指す「語学教育、学習支援の総合カンパニー」です。

### 7. 一般社団法人 Global8

Global8 は ACTFL 準拠のコミュニケーション力測定に基づきグローバル人材育成の場をつなぐ法人です。

### 8. テエル株式会社

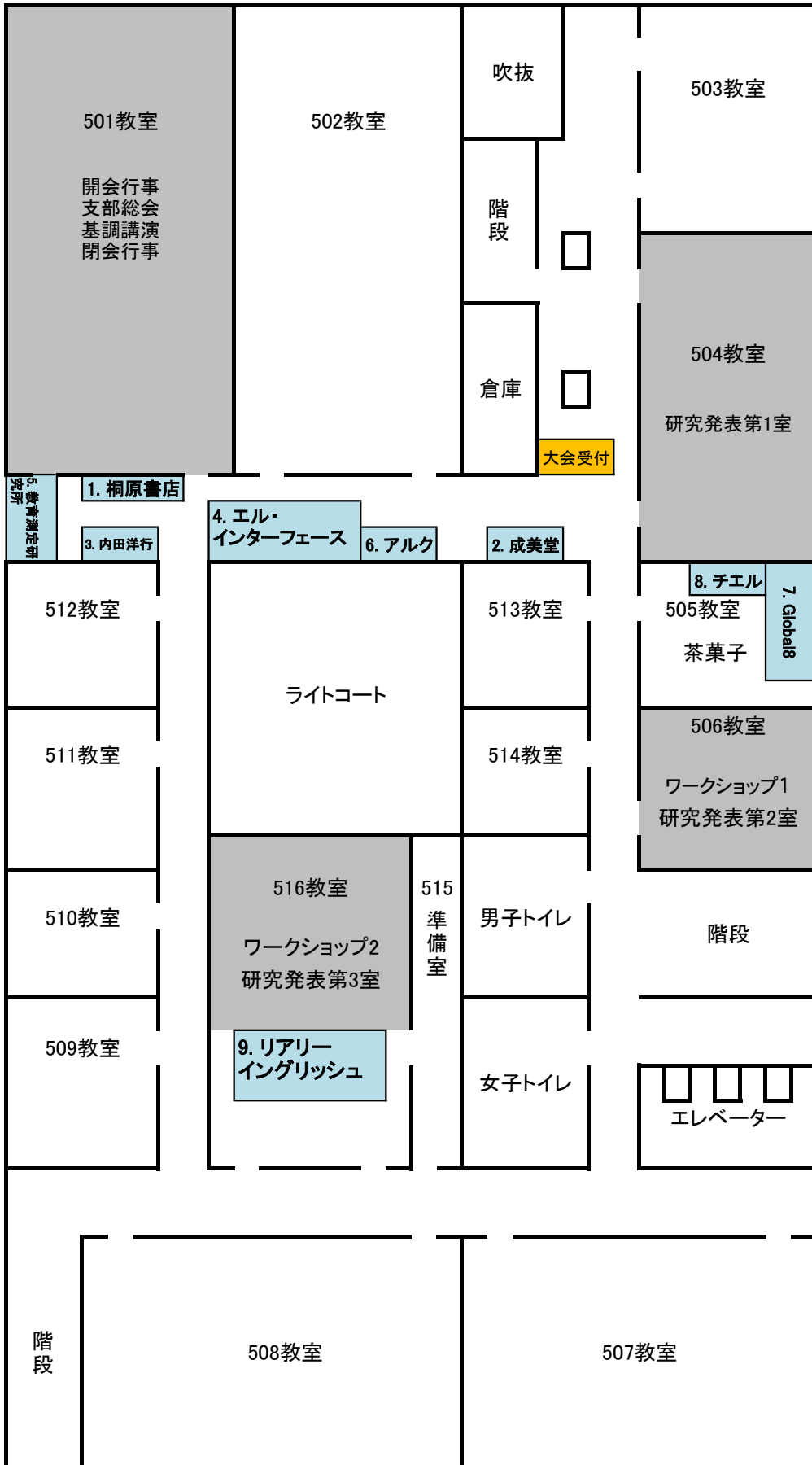
英語 4 技能を総合的に育成するソリューション (CALL/MALL) をご紹介させていただきます。

### 9. リアリーイングリッシュ株式会社

Reallyenglish は IELTS coach 6.0 等、様々な e ラーニング教材を提供しております。

次ページの出展場所をご確認の上、ぜひお越しください！

# 会場・展示配置図



## Connecting Writing Assessments to Teaching and Learning: Distinguishing Alternative Purposes

Alister Cumming (University of Toronto)

Assessments of second-language writing differ in their purposes, which may be either normative, formative, or summative. Normative purposes of assessment compare the performances of all people who take a particular test, usually to inform high-stakes decisions about selection or placement into academic or language programs, certification of credentials, or for employment or immigration, but also to monitor trends in an educational system to inform decisions about developing or improving educational policies, practices, and resources. In contrast, formative purposes of assessment respond to and inform students and teachers about individual students' writing and learning and give advice to revise or improve within the context of a particular assignment, course, and/or program. Summative purposes of assessment document and report individual students' achievements in reference to a particular curriculum, sequence of instructional activities, or program in view of expected outcomes, available resources, and opportunities to learn. Elaborating on ideas from Cumming (2014) and Cumming et al. (under review), I suggest how teachers and program policies can address and distinguish these purposes for: (a) *proficiency tests* and *curriculum standards*, (b) *diagnostic* and *dynamic assessments*, (c) *responding to students' written drafts*, and (d) *grades* or *local tests of summative achievements* in a course or program.

### References

- Cumming, A. (2014). Linking assessment to curricula, teaching, and learning in language education. In D. Qian & L. Li (Eds.), *Teaching and learning English in East Asian universities: Global visions and local practices* (pp. 2-18). Newcastle, UK: Cambridge Scholars Publishing.
- Cumming, A., Cho, Y, Burstein, J., Everson, P., & Kantor, R. (under review). Assessing academic writing. In X. Xi & J. Norris (Eds.) *Assessing academic English for higher education admissions*. New York: Routledge.

## ICT で加速する語学教員の働き方改革：

### チームによるクラウド活用の初歩

ICT-driven Work Style Reform for Language Teachers: Basics of Cloud-based Team Collaboration

木村 修平 (立命館大学)

キーワード：クラウド, 働き方改革, G Suite, Slack

#### 1. はじめに

本ワークショップでは、ICT(情報通信テクノロジー)を教員のタスク処理フローに合理的に組み込むことで紙ベースで行っていた事務系タスクの負荷が大幅に軽減され、教員ひとりあたりの創造的な生産性が向上する可能性が大きいことを具体的に示すことを目的とする。日本の労働環境の見直しは「働き方改革」と称され国策レベルの社会課題として認識されていることにくわえ、特に教員は長時間労働や高負担が指摘されている職種でもあり、本ワークショップを通じて現場の教員同士が知見を共有しアプリやサービスを具体的に体験することの意義は大きいと考える。

#### 2. プロジェクト発信型英語プログラムとは

事例として取り上げるのは筆者がコアメンバーとして運営に携わるプロジェクト発信型英語プログラム(公式サイト: pep-rg.jp)である。同プログラムは立命館大学の生命科学部・薬学部・スポーツ健康科学部・総合心理学部の4学部にわたって実施されており、BYOD (Bring Your Own Device) 体制のもと授業内外の学習にICTを全面的に採り入れているほか、プログラムに携わる教員らは教務系・事務系タスクのほとんどをオンライン上で効率的に行っており、大学教員によるICTを通じた働き方改革の実践事例と言える。

#### 3. Googleサービスの活用

オンライン上で複数人が同時にタスク処理を行うインフラとしてGoogleが提供するドキュメント、スプレッドシート、スライドなどを紹介する。また、タスクに関わる情報共有のツールとしてカレンダー、ドライブの活用事例を紹介する。いずれも参加者自身に自らの端末で体験してもらう。

#### 4. チャット型コミュニケーションツール「Slack」の活用

近年多くの企業やプロジェクトで採用が進むチャットベースのグループウェア「Slack」の基本的な使い方とメリットを紹介する。参加者にも自らの端末からワークショップ用 Slack グループにアクセスしてもらう。

#### 5. 考察と結果

本ワークショップでは、これまでの実践を通じた考察にもとづき、次の3点を強調する。「ITが苦手な人を基準にしてはいけない」「わからないことを気軽に尋ねられる雰囲気を醸成する」「FD (Faculty Development) にICTの使い方を取り入れる」(木村・落合・近藤, 2019)。

#### 参考文献

木村修平, 落合淑美, 近藤雪絵. (2019). 英語プログラム独自 FD を通じた新任教員の研修と効果—所属レイヤーに最適化したサポート体制の一事例として—, 『第25回大学教育研究フォーラム発表論文集』, p. 47.



# Generating Creative Classroom Activities through the Minds of Great Thinkers

偉人たちに学ぶ創造的授業実践の方法

Takaaki Hiratsuka (Tohoku University)

## 1. Background

It was once assumed that teachers would learn how to teach their subjects in their teacher education programs, teaching practicums, and their induction years of teaching through top-down approaches. These approaches viewed teaching as merely transmitting compartmentalized knowledge. However, with substantial advances in the quantity, scope, and quality of research into teacher education, we now know that teachers' learning-to-teach activities are much more complex and messier than previously envisaged and that teachers therefore require a commitment to on-going professional development. Teacher educators thus need to provide these professional development opportunities and to offer methods and examples of such development at the grassroots level. In this regard, I decided to look into the educational philosophies of great thinkers to date (e.g., Allwright & Hanks, 2009; Dewey, 1916; Fanselow, 2018; Montessori, 1964; Robinson, 2015), examine some practical ways to incorporate their wisdom into my own classrooms, and investigate any effect the changes had on the quality of my lessons.

## 2. Abstract

The aim of the workshop is to let our imagination roam free and to playfully create engaging classroom activities through the minds of great thinkers. I begin the workshop by presenting several flaws and ideals in education which were identified by famous thinkers of the past, such as John Dewey and Maria Montessori, as well as great thinkers of today, such as Dick Allwright, John F. Fanselow, and Sir Ken Robinson. According to them, the flaws are represented by the notions of conformity, obedience, and linearity; while, the ideals are embodied by the concepts of diversity, creativity, and complexity. Although I caution against the dangers of adhering to the educational flaws that are prevalent in our teaching context, Japan, my primary focus is a positive one: to enable us to become autonomous educators who can incorporate the educational ideals into our classrooms and who can, independently, develop innovative pedagogical methods that increase students' learning. To do this, I provide an exemplar from one of my lessons in which I teach English speaking and writing. Following the example, participants are then set the task to create their own original output activities for their classrooms. Some tips for generating creative classroom practices to be introduced in the workshop are: (a) trying the opposite, (b) employing practices from outside the classroom, (c) transcribing, and (d) emphasizing the quality of life. The workshop concludes with an open discussion.

## References

- Allwright, D., & Hanks, J. (2009). *The developing learner: An introduction to exploratory practice*. Basingstoke: Palgrave Macmillan.
- Dewey, J. (1916). *Democracy and education*. New York: Macmillan.
- Fanselow, J. F. (2018). *Small changes in teaching big results in learning*. Tokyo: iTDi.
- Montessori, M. (1964). *The Montessori method*. New York: Schocken Books.
- Robinson, K. (2015). *Creative schools: The grassroots revolution that's transforming education*. New York: Viking Press.

# 音声学を履修していない教員の発音指導力向上に、

## 発音記号はどのように貢献できるか

How Can Phonetic Symbols Help Teachers with No Phonetic Training  
Improve their Teaching of Pronunciation?

山本 玲子 (京都外国語大学)

里井 久輝 (龍谷大学)

眞崎 克彦 (関西大学)

キーワード： 中学校発音指導, 教員研修, 発音記号

### 1. はじめに

発音指導の重要性が繰り返し指摘されているにもかかわらず、大学で音声学を履修していない英語教員、特に中学校・高校で発音記号を学んだ経験のない若い世代の教員の中には、発音指導に自信のない教員も少なくない。本研究の目的は、発音記号を知らない教員が発音記号を習得し、さらに発音記号を使つての発音指導に挑戦することで、発音指導力が向上することを精査することである。

### 2. 参加者と手順

参加者は、2つの公立中学校1年生の生徒とそれぞれの英語担当教員である。A 中学校の教員は採用2年目で音声学を履修していない教員、B 中学校の教員は TOEIC 満点かつ経験豊かなベテラン教員である。A 校では、筆者らが発音記号の研修会を実施した後、新たに開発した教材を使用して生徒に1年間の発音記号指導を行ってもらい、B 校では、発音記号を使用せず通常の発音指導を行ってもらった。指導の前後にはプリテスト (年度初め)・ポストテスト (年度終わり) として同じ発音テスト (山本・里井, 2017) を実施した。テストの録音データを使用し、ネイティブ教員が5点満点で評価を行った。

### 3. 結果と考察

プリテストでは両群の均質性が確認され、ポストテスト (図1) では、絵のみのカード使用時、絵と綴りのついたカード使用時いずれの発音でも A 校が B 校を有意に上回った。A 校の生徒だけの調査では、発音記号のカードと、絵と綴りのカード間に有意差が確認された。A 校生徒へのインタビューからも、教員の発音指導に対する肯定的な結果が得られた。A 校教員は、発音記号に対して最後まで自信が持てない様子であったが、結果としてベテラン教員と遜色ない発音指導が可能であることが示された。

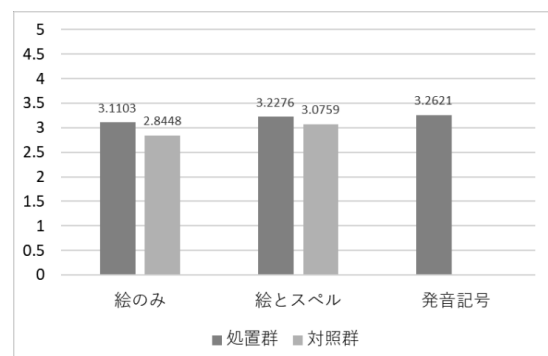


図1 ポストテスト結果

### 参考文献

山本玲子・里井久輝 (2017) . 「英語と日本語のプロソディの違いに気づかせる小学生への語アクセント指導の試み: 『相手に伝わる発音』への効果」『関西英語教育学会紀要』40, 11-19.

## ポライトネス理論の視点による苦情対応の日英比較:

### 店側の落ち度の程度による対応の変化

A Japanese-English Comparison on Complaint-Handling from the Perspective of Politeness Theory: Differences in Responses Based on the Degrees of Responsibility from Businesses

岩井 千春 (大阪府立大学)

岩根 久 (大阪大学)

キーワード：苦情対応，ESP，語用論

#### 1. はじめに

外国人観光客の数は2018年に過去最高を記録し、約3,119万人が日本を訪れている（日本政府観光局, 2019）。このように増え続ける外国人観光客に対し、観光業のあらゆる業種で、苦情対応も英語で行う必要性が高まっている。接客業務において苦情対応は重要であるにもかかわらず、これまでは接客熟練者の「匠の技」や経験が記述されるに留まっており、学術的研究は行われていない。そこで本研究は、観光学分野のESPに語用論の研究手法を応用することにより、苦情対応の方法を日英で比較分析する。

#### 2. 方法

接客担当者の苦情対応についてDCT（Discourse Completion Test 談話完成テスト）を実施した。回答者は日本とアメリカでそれぞれ、接客業で苦情対応の経験がある20代～50代の約300名である。本調査は2017年9月～10月にインターネットを介して行った。今回の研究で分析対象とする質問は、店の落ち度の度合いに変化をつけた苦情内容であり、それにより回答者の対応の違いを探る。分析にはポライトネス理論を用い、更に、同時に行った質問紙調査の結果（岩井, 2019印刷中）も併せて考察を行う。

#### 3. 結果

分析の結果、日米で苦情対応の方法や意識が異なることが明らかとなった。日本人は店のルールに従い、詫びて顧客を納得させようとし、アメリカ人はより柔軟に対応し、顧客をhappyにしようとする傾向があった。また、苦情対応に関して、アメリカ人の方が心理的に負担感が少ないことを示唆していた。

#### 4. おわりに

今後はすでに実施しているロール・プレイの分析も進め、トライアングレーションにより、日米の苦情対応の実態と相違点を更に解明し、日本の国際観光業における接客の課題を検証し、観光学教育のための教材開発を行う予定である。尚、本研究は、科学研究費補助金研究（基盤(C)「観光業の苦情対応における日英比較の研究—語用論を活かしたESP教材の開発—」H29～H32年）の一部である。

#### 参考文献

Brown, P. & Levinson, S. C. (1978, 1987). *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press.

岩井千春 (2019 印刷中). 苦情対応に関する意識の日米比較—接客業経験者に対する質問紙調査『日本国際観光学会論文集』26 (2019年3月発行予定)

(参照サイト)

日本政府観光局 (JNTO) (2019). 訪日外客数 (2018年12月および年間推計値) (最終閲覧日 2019年2月20日), [https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press\\_releases/pdf/190116\\_monthly.pdf](https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/190116_monthly.pdf)

# クイズゲーム形式の Kahoot! とスマートフォン を活用した語彙学習

A Vocabulary Learning Using a Quiz Game Format, Kahoot!, and Smartphones

野澤 和典 (立命館大学)

キーワード : Gamification, Kahoot!, Smartphones, Vocabulary Learning

## 1. はじめに

Gamification は決して新しい概念ではないが、Kahoot! は 2013 年にノルウェーで開発されたゲーム型学習応答システムで、多項選択式のクイズを学習者がスマートフォン、PC やタブレットを使い、ゲーム感覚で学びを深める仕組みで、ゲーム型学習と応答をすることとモチベーション向上との関連性は非常に高い。Zarzycka-Piskorz (2016) は、ポーランドの大学で Kahoot! を使用した文法学習におけるモチベーションの向上を報告し、Case (2018) は TOEIC への受験対策、文法学習、アンケートと討論、プロジェクト型学習の 4 活用法を提案している。山内(2017)は習熟度の低い学生向け授業で、Kahoot! の使用が積極的な学習態度への変容となったと報告し、松原・吉田 (2018) は授業の最後に、新出語彙の定着を確認する Kahoot! による単語テストを実施し、授業開始直後に行う前回授業の語彙復習に使用し、限定的ではあるものの、効果があることを報告している。本実践例では、Kahoot! とスマートフォン・アプリを使った語彙学習の有効性と問題点について報告する。

## 2. 参加者と手順

参加者は 2018 年度後期の 2 クラスの情報理工学部 2 年生 43 名で、指定テキストの各ユニットの重要語彙の定着を促進し 語彙学習の意欲を高めるために、シラバスに従った各週のタスク終了後の授業後半に Kahoot! と各自のスマートフォンにインストールしてもらったアプリを使い、計 7~8 回実施した。

## 3. 結果と考察

7 問から成る重要語彙の定義はオンライン英語辞書から得たもので、正しい定義を選択するのが難しいものもあったようであるが、Google Form での事後アンケートでは、Kahoot! を使った語彙学習は、ゲーム型学習応答システムの新しい挑戦的学習で、楽しく、重要語彙の理解が深まり、今後も継続的に活用したいと大多数が回答している。教員は、容易にクイズ作成や成績管理ができ、自習モードでの自学自習も提供できる一方、問題文や選択肢の文字制限などがある。

## 参考文献

- 松原万里子・吉田晴世(2018). SNS を組み込んだ大学英語語彙学習者のためのシラバスの構築, 2018 PC カンファレンス予稿集, 137-140.
- 山内真理 (2017). Kahoot! による学生参加の促進 - ゲーム要素による学主体験変容, コンピュータ&エデュケーション, 43, 18-23.
- Case, S. (2018). Using Kahoot to Gamify Your Classroom, *The Language Teacher*, 42(4). Retrieved from <https://jalt-publications.org/articles/24341-using-kahoot-gamify-your-classroom>
- Zarzycka-Piskorz, E. (2016). Kahoot it or not? Can Games be Motivating in Learning Grammar? *Journal of Teaching English with Technology*, 16(3), 17-36.

# Google 翻訳の外国語教材作成への応用： フレーズ訳の作成を中心に

An Application of Google Translate for Developing Language Learning Material

神谷 健一（大阪工業大学）

キーワード： Google 翻訳, 教材作成, Phrase Reading Worksheet 作成ツール

## 1. Google翻訳の「実力」

Google 翻訳の「実力」は日々進化しているように感じられるが、現実的にはどのように進化しているだろうか。また教材作成にどのように応用できる可能性があるだろうか。例えば英文のスラッシュ・リーディング教材作成について検討する。以下は意味の塊に分割し、各フレーズの後に Google 翻訳による和訳を追加したものであるが、ほぼ違和感がない。この訳は 2019 年 3 月 6 日に出力したものである。

Scientists say they have made more progress / 科学者達は彼らがもっと進歩したと言っている / in developing malaria-resistant mosquitoes. / マラリア抵抗性の蚊の開発に。 / The idea is / アイデアは / to release genetically engineered insects like these / このような遺伝子組み換え昆虫を解放する / into mosquito populations / 蚊の集団に / as a way / 方法として / to control the disease. / 病気を制御する。 / Each year / 毎年 / more than three million people become infected / 300 万人以上の人々が感染する / with malaria. / マラリア / At least one million die, / 少なくとも 100 万人が死亡します。 / mostly young children / 主に幼児 / and pregnant women / 妊娠中の女性 / in Africa. / アフリカで。 / Malaria is / マラリアは / also a problem / また問題 / in Asia / アジアで / and South America. / そして南アメリカ。 / The parasites / 寄生虫 / that cause malaria enter people's blood / マラリアの原因となる血液 / when they are bitten / かまれたとき / by the mosquitoes / 蚊によって /

## 2. どのように応用できるか

大学英語教科書によっては上記のようなフレーズ分割と和訳を教授用資料として提供している場合があるが、発表者が開発した Phrase Reading Worksheet 作成ツールを利用し、途中の段階で Google 翻訳を利用すると、ほとんど手間をかけることなく上記のような形で出力することができる。教材作成の際はフレーズ訳の微調整のみで良い。発表ではツール実演を行なった後に、別の英文素材での結果も紹介する。

上記の英文では偶然にもほとんど違和感のない訳文が得られているが Google 翻訳ではフレーズ訳の作成において不完全な場合がある。発表者の目視による分析では「余分な主語が追加される」「同音異義語」「同じ単語が文法的に異なる用法で使われる場合」「全て大文字で書かれた場合」などで誤訳が起こるようである。また「前置詞が訳出されない」「不適切な句読点になる」といった例も散見される。これらについての詳細な分析は今後の課題であるが、遅かれ早かれ、ある程度までは改良されるであろう。

## 参考文献

神谷健一（2019）. 個人用データベース・ソフトウェアを利用した授業支援のためのツール類と外国語教育への応用可能性 -最小限の設備と最小限の手間を基軸に-, 大阪大学大学院言語文化研究科博士学位請求論文.

# 生徒を世界に繋ぐ ICT 活用の実践

Connecting Students with the World through Information and Communication Technology

堀尾 美央 (滋賀県立米原高等学校)

キーワード： ICT, 国際交流, 英語

## 1. はじめに

技術革新が進み、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (以下SNS) や情報通信技術 (Information and Communication Technology, 以下ICT) の普及で、インターネットを通じた諸外国の人達との交流が容易になってきている。そんななか、Google翻訳や通訳アプリなど、日常レベルでは英語でのコミュニケーションを可能にするツールも多く開発されている。このような点を踏まえると、学習者の間では、英語を学校で学ぶ意義について、疑問の声が今後あがることが予想される。このような中で、本実践では、ICTやSNSを授業に活用できる可能性について探った。

## 2. 参加者と手順

授業実践は、滋賀県立米原高等学校 2016 年度第 3 学年英語コース生と、2018 年度第 2 学年英語コース生を対象に行っているが、本実践発表において対象とするのは、2018 年度第 2 学年英語コース生に対し行ったものである。Microsoft 社の教育部門が展開している教育用 SNS、“Microsoft Educator Community”を介して繋がった各国の教員と、Facebook や Twitter などを利用して関係を継続し、その関係を利用して、各国の教員に授業に協力していただいた。

本校英語コース 2 年生は、3 月に英語のプレゼンテーション大会に参加する。今回の実践は、そのテーマを探る部分から、発表に至るまでの調査の過程で、Google Forms や Skype を活用し、各国の生徒や教員にインタビューを行ったものである。

## 3. 結果と考察

久保田 (2007) が述べているように、「ほんものの学び」をするには、ほんものの相手と対峙する場面が必要である。今回の実践後、実際に諸外国にインタビューを行った生徒を対象にアンケートを実施したところ、Web ページ上での情報収集とは違い、「ほんもの」に関わることによる、この方法の利点を示す声が数件寄せられた。

## 参考文献

Casa-Todd, J. (2017). *Social LEADia*. San Diego: Dave Burgess Consulting, Inc.

Ronbinson, S. (2017). *Connections-Based Learning*. Port Coquitlam: Connections-based Learning

久保田真弓 (2007) (シンポジウム) ICT (情報コミュニケーション技術) 教育と異文化理解『関西大学学術リポジトリ』

経済協力開発機構 (OECD)・ベネッセ教育総合研究所 (2018) 『社会情動的スキル 学びに向かう力』東京：明石書店

堀尾美央 (2016) 「Skype を用いたグローバル教育の可能性の探求」『2016 年度 大阪女学院大学 教職課程機関誌 OJU 教職活動報告・研究』Vol.7, 123-129. : 大阪女学院大学・大阪女学院短期大学 教員養成センター

## ロイロノート・スクールを使った授業

The Effective Use of LoiLoNote School in the Language Classroom

大前 智美 (大阪大学)

北岡 千夏 (大阪大学・関西大学 非常勤講師)

キーワード : ICT, 授業支援ツール, スマートフォン

学生のスマホ所有率がほぼ 100%となった外国語教育の現場で、教材提示や学生とのコミュニケーション、課題管理にスマホを使用することは教員・学生両者にとって有益である。本発表ではロイロノート・スクールを用いたドイツ語授業例として課題管理や学生のポートフォリオとしての使用について報告を行う。後半ではロシア語授業シラバスの提案とその試行中における学生の活動例を提示し、通常授業との違いに注目した実践報告を行う。

# 非英語圏留学における英語学習の効果

Effects of Study Abroad in Non-English Speaking Countries

川久保 淳 (株式会社産業編集センター)

伊藤 創 (関西国際大学)

キーワード：語学留学，第二言語習得，発話の促進，

## 1. はじめに

近年、海外に留学する日本人は増加の一途をたどるが、近年の傾向の一つとして、アジア圏への留学の増加が見られる（日本学生支援機構 2019）。アジア圏への留学であっても、その目的は英語力向上を目的としたものが多くを占めるが、非英語圏での（英語学習のための）語学留学のメリットとしては、英語圏での留学よりも心理的なハードルが低いことがあげられる。これは4技能のうち、speaking が学習者にとって心理的負担が学習上最も大きい技能である（Guiora1972）ことに鑑みると、非英語圏における語学留学は、特に同技能の向上に効果があることが期待される。

## 2. 非英語圏での語学学習の効果検証

上記に鑑み、第一筆者（川久保）は、タイに語学留学中の日本人英語学習者を対象に、彼らが英語母語話者であるアメリカ人留学生、日本人と同じく英語が第二言語であるタイ人、それぞれを相手に同一テーマ（Good points of study abroad）でディスカッションした際に、相手によって発話量に違いが見られるかを調査した。調査の結果、日本人英語学習者の平均発話量は、アメリカ人留学生とのディスカッション時においては大幅に減少することが確かめられ、英語母語話者よりも非英語母語話者とのディスカッションの方が日本人学生の発話量増加を促す可能性があることが示唆された。

## 3. 英語母語話者と非英語母語話者との会話内容の分析

本研究では、上記調査を発展させ、発話内容についての質的な分析を行った。その結果、1) タイ人との会話においては、より生活に密着したパーソナルな話題が多く出る傾向にあること、2) アメリカ人との会話においては、質問内容からの話題の逸脱が少なく、その質問内容に忠実に答えようとする傾向があること、3) アメリカ人との会話時は、関係代名詞や接続詞が多く出て、構造的逸脱の少ない文を産出しようとする傾向が見られること、4) アメリカ人との会話時には、“Can I ask?” や “Is this boring?” といった、やや否定的でへりくだっているような質問が少なからず見られること、などが確かめられた。

## 4. 考察

非英語母語話者との会話においては、心理的負担が少なく、警戒心がほぐれパーソナルな話題、また話題の逸脱の許容等、会話の促進効果が見られ、前回調査における発話量の増加という量的データを裏付ける結果となった。この結果は、非英語圏での英語学習を目的とした語学留学に一定のメリットがあることを示すものと思われる。

## 参考文献

日本学生支援機構（2019）『平成 29 年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果』

[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl\\_student\\_s/2018/index.html](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_s/2018/index.html)（2019年3月閲覧）

Guiora, A.Z. (1972) Construct validity and transpositional research: toward an empirical study of psychoanalytic concepts. *Comprehensive Psychiatry*, 13(2), 139-150.



# 大学における留学準備ライティングクラスの実際：

## TOEFL Criterion® の活用

The Effective Use of Criterion® for TOEFL Writing Test Preparation

伊庭 緑 (甲南大学)

吉田 桂子 (甲南大学)

キーワード： Criterion®, TOEFL, ライティングクラス、留学準備

### 1. はじめに

勤務校の「留学のための英語集中コース」では、1年次後期に週2回の中級英語 Writing を開講している。パラグラフライティングを指導する中で、授業外学習に Criterion® を用いたエッセイを課して TOEFL に対応したライティング力の向上を図っている。Criterion® は、入力した英文のエッセイを瞬時に評価しフィードバックするオンラインサービスである。本発表では、ライティングクラスの実際と Criterion® の使用方法等を紹介する。

### 2. 英語集中コースの概要

このコースでは英語圏への留学を希望する学生を対象に、通常は1年かけて履修する College English Reading and Writing, College English Listening, College English Speaking を前期に週4コマ集中的に開講し、後期は同時間帯に通常は2年生以上が履修する中級英語 Presentation, 中級英語 Writing を開講、2年生前期には中級英語科目4科目の中から2科目を選択履修できるカリキュラムを組んでいる。留学に必要な英語力を短期間に集中的に養成することを目的としている。

### 3. ライティングクラスの実際と Criterion® の導入

2018年度後期、中級英語 Writing クラスは文学部4クラス、経済学部2クラス、法学部1クラス、経営学部3クラスの計10クラスで合計139名の学生が履修した。1クラスは20名以下に設定しているが、最大クラスで18名、最小で5名が履修した。授業は英語で行われ、専任教員、特任教員が担当している。テキストは指定テキストのリストの中から選択し、パラグラフライティングの習得をめざす。授業はグループワーク、ペアワークを取り入れ、授業外の課題のひとつに Criterion® を導入している。Criterion® は Educational Testing Service (ETS) が制作したウェブベースの英文添削プログラムで、入力したエッセイは自動採点で瞬時にフィードバックされる。教員によって、半期で4回~8回このプログラムを使用したエッセイを課題とし、結果を授業評価の一部に組み込んでいる。

### 4. 学生評価と課題

授業評価アンケートは大学共通のものは存在するが、Criterion® に対する学生の評価をコース全体でまだ行っていないことが課題である。本発表は各教員が個別に行った学生の評価を紹介する。学生評価は良好であり、有効性が示唆されるが、今後コース全体のアンケートを施行し分析する必要がある。また Criterion® 自体の効果の実証実験を行い、先行研究と比較することも課題のひとつである。

### 参考文献

ETS Criterion. (n.d.). *Criterion Home*, Retrieved March 7, 2019, from <http://www.ets.org/criterion>

## B6 の白紙を用いた追加ライティング活動の紹介

Additional Writing Activity with B6 Blank Paper

真島 由朱（大阪府立箕面高校）

キーワード：追加活動，ライティング，サマリー

授業において特別なハンドアウトを作成することなく、「少し小さめの紙」である B6 の白紙を用いて様々な活動をできないか考案した。追加ライティング活動として「キーワードハンティング&サマリーライティング」を紹介する。レッスン後に行うとよい復習となり、またリテリングなどの活動も同時に行える。教材作成は授業においてとても大切であり力を入れて行うべきだが、すぐに用意できる白紙だけでも色々な活動が追加できる。



# 未 FUTURE CLASSROOM® 来型学習空間をご提案します。



## 建築躯体に手を加えることなく ICT空間を容易に構築。

現在の授業では、固定されたテーブルに着いて一方的に話を聞く学習ばかりではなく、最新のICT機器を用いた授業や、PBL※などのグループ単位で能動的に活動するような授業が増えてきています。

そういった授業の中では、通常の「レクチャア」から、グループ毎に分かれて活動する「グループワーク」、成果を共有・発表する「プレゼンテーション」や「ふりかえり」といった場面の転換が必要不可欠です。それぞれのシーンにマッチした空間セッティングへの変換が、スムーズかつクイックに実現できるこれからの教室、それが「FUTURE CLASS ROOM®〈フューチャークラスルーム®〉」の考え方です。

※PBL (Project Based Learning) : 授業形態の一つで「課題解決型授業」のこと。



「フューチャークラスルーム®」は、学校関係者や企業・研究機関と一緒に新しい授業スタイルの研究開発・実証実験を行える場所として、新川本社ビル(東京都中央区)、大阪支店(大阪府大阪市)、九州支店(福岡県福岡市)に設置しております。ぜひ、ご来場ください。

**内田洋行** 高等教育事業部



いい「学校・教育・授業」づくりを支援いたします。  
[www.uchida.co.jp/education](http://www.uchida.co.jp/education)

東京 〒135-0016 東京都江東区東陽2-3-25 東日本営業部 ☎ 03(5634) 6441  
大阪 〒540-8520 大阪市中央区和泉町2-2-2 西日本営業部 ☎ 06(6920) 2493